

令和2（2020）年度

公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する
評価結果報告書

令和3（2021）年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

令和 2（2020）年度の業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 78 条の 2 の規定に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の令和 2（2020）年度業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

I 評価の基本方針・評価方法

1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の各事業年度の業務実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

(1) 項目別評価

ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「令和 2（2020）年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表 1 に定める年度計画の小項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の 5 段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表 1 に定める大項目ごとに、実施要領別表 2 に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の 5 段階で評価を行った。

(2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表 2 に定める評価基準により、当該事業年度における法人の中期目標及び中期計画の進捗状況または達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

実施要領別表 1 : 年度評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	年度計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の進捗状況または達成状況 ※年度計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】（年度計画第2の1） (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】（年度計画第2の2）
	6 【地域貢献に関する事項】（年度計画第2の3）
	7 【国際交流に関する事項】（年度計画第2の4）
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第3）
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第4）
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第5）
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第6）	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況または達成状況

実施要領別表 2 : 年度評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている（評価委員会が特に認める場合）
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	年度計画を達成している（100%以上）
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね年度計画を達成している（80%以上100%未満）
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	年度計画を十分には達成できていない（80%未満）
大項目別評価	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる（すべてb以上）
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる（bからaの割合が80%以上100%未満）
全体評価	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている（bからaの割合が80%未満）
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）
		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は順調	
	中期計画の進捗は概ね順調		
	中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

Ⅱ 全体評価

1 評価結果

中期計画の進捗は順調

○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」という理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度の中期計画に基づき、教育・研究の質の向上や地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。

開学3年目となる令和2(2020)年度は、国内外における新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況下であったものの、学内の感染防止対策を徹底した上で、教育の質の維持・向上や学生へのきめ細かな支援に、教職員が一丸となって取り組んだ。

具体的には、全ての教員が双方向性を確保したオンライン授業を効果的に実施できるよう、スキルアップや教材開発に取り組んだほか、2年次対象の海外プログラムは内容を工夫してオンラインにより代替実施、臨地実習は学内での代替授業の実施などにより適切に対応した。

また、入寮数の制限により入寮できなかった1年生も含めオンラインによる学生間の交流を行ったほか、学生が地域の方々と接する機会が減少する中においても、地域と結びついた学習プログ

ラムの運営や学生による起業などに取り組んだ学生の行動力にも敬意を表したい。

このように、コロナ禍で活動が制限される中でも特長的な大学独自の教育が行われるとともに、ソーシャル・イノベーション創出センターによる地域・高校との連携のほか、学生へのキャリア支援や大学院の設立準備などにも取り組み、中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価する。

英語教育については、2年次修了時まで全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指す高い目標を掲げ、精力的に取り組んでいる。大学入学後の英語集中プログラムの実施により、学生の英語力の全体的な底上げはなされているものの、中期計画の目標値の達成に向けて取組の見直しを含めた抜本的な対策が必要である。

また、科学研究費の毎年度新規申請率80%以上を目指すという目標値が達成されていないこと、GPA(成績評価値)を活用した学生の成績評価結果を授業内容・方法の改善につなげることなどの課題も見受けられる。

年度計画を達成できなかった項目については、中期計画6年間の折り返しを迎える中で、大学の更なる発展に資する目標の達成に向け、要因を検証の上、必要な対策を早急に検討するなど、一層の取組が望まれる。

理事長・学長以下教職員が今回の評価結果における課題に対して共通認識を持ち、中期目標・中期計画の達成に向けて引き続き取り組まれることにより、今後の法人運営の改善や大学の更なる発展につながることを期待する。

Ⅲ 項目別評価

(i) 大項目別評価結果 (一覽)

評価委員会における小項目評価に基づく大項目評価の状況は以下のとおりである。本年度は小項目数が93項目となった。

大項目評価*				小項目評価					
				s	a	b	c	d	合計
1	1 教育	(1) 人材育成の方向	B	0	17	0	1	0	18
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	5	0	0	0	5
3		(3) 教育の質の向上	A	2	4	1	0	0	7
4		(4) 学生への支援	A	1	14	0	0	0	15
5	2	研究	B	0	5	0	1	0	6
6	3	地域貢献	A	1	7	0	0	0	8
7	4	国際交流	A	0	5	0	0	0	5
8	5	業務運営	A	0	9	0	0	0	9
9	6	財務	A	0	3	0	0	0	3
10	7	自己点検・評価	A	0	3	0	0	0	3
11	8	その他業務運営	A	1	12	1	0	0	14
項目数合計			11	5	84	2	2	0	93
割合 (%)				5.3	90.3	2.2	2.2	0	100

【大項目評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

93の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が5項目、a(順調に進んでいる)が84項目、b(概ね順調に進んでいる)が2項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

(ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
B	中期計画の進捗は概ね順調

18個の小項目中、17項目がa(順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	17	0	1	0	18
	割合(%)	0	94.5	0	5.5	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	17	0	1	0	18
	割合(%)	0	94.5	0	5.5	0	100

▽評価できる点

- ・コロナ禍においても、オンラインを活用して新入生のほぼ全員を対象に個人面談を実施した学長の努力を評価する。
- ・コロナ禍の中、オンラインを活用した「臨地実習」により、対面実習を補完する対応を行ったことを評価する。
- ・コロナ禍の中、令和2年度の海外プログラムについては、食健康学科のオンライン代替プログラムの内容を工夫した上で実施したほか、グローバルマネジメント学科においても一部代替プログラムを行った点を評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・2年次修了時の TOEIC 点数の目標（全学生 600 点以上、平均 700 点以上）が達成できていないことから、少人数クラスの編成や英語集中プログラムの充実、TOEIC 対策講座の実施など、英語力向上の取組みの見直しを含めた抜本的な対策をとる必要があると考えられる。
- ・開学以来取り組んできた学長面談の効果検証や学生のフォローアップも検討していただき、今後ともぜひ継続されたい。
- ・グローバルマネジメント学科の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」は選択科目であるため、未履修の学生にも進路に応じた学びや自らの関心のある分野について主体的な学びを促すように努めることを期待する。

2	教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ
A	中期計画の進捗は順調

5 個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

2 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・大学のホームページをリニューアルし、アクセス数の向上につな

がった点や大学事務局の各係に広報推進員を配置し、学内情報を収集して公表した取組みを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・高校訪問をはじめとする大学の広報活動の成果として、翌年度以降の志願者数や受験者数の増加にどう結びついているかを検証し、県内高校生の志願者・受験者の増加につなげていただきたい。
- ・大学の得意とする分野など特長を活かしつつ、単位互換の対象科目の充実を検討していただきたい。

3	教育に関する事項 (3) 教育の質の向上
A	中期計画の進捗は順調

7 個の小項目中、2 項目が s（特筆すべき進行状況にある）、4 項目が a（順調に進んでいる）、1 項目が b（概ね順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

3 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	4	1	0	0	7
	割合（%）	28.6	57.1	14.3	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	2	4	1	0	0	7
	割合（%）	28.6	57.1	14.3	0	0	100

▽評価できる点

- ・大学院設置基本構想の提案後も、大学院における教育・研究・地域貢献の充実に向けて、特色ある教育課程の検討や入学・採用ニ

ーズの広範な調査、県との十分な協議を重ねた上で、長野県のイノベーション創出や健康長寿などを牽引し、地域課題の解決に取り組むリーダーを養成する大学院として、設置認可申請に至ったことを評価する。

- ・コロナ禍におけるオンライン授業のためのスキルアップ研修など、前年度より充実したFD・SD研修を行っており、研修内容の動画配信などの工夫により教員全員が1回以上参加している点を高く評価する。

※FD: Faculty Development の略: 大学教員の教育能力を高めるための実践的方法、組織的な取組

※SD: Staff Development の略: 教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員を対象とした、必要な知識・技能の習得、資質向上の研修、組織的な取組

- ・授業改善アンケート結果の学内での共有、各教員による授業改善案の策定、学部長によるチェック・指導などを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・GPA を活用して学生の成績評価を実施しているが、その結果を授業内容や授業方法等の改善につなげるよう、更に取組みを進めていただきたい。

※GPA: Grade Point Average の略: 各授業科目の成績から加重平均により算出された学生の成績評価値を用いる制度

4	教育に関する事項 (4)学生への支援
A	中期計画の進捗は順調

15 個の小項目中、1 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、14 項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

4 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	14	0	0	0	15
	割合 (%)	6.7	93.3	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	14	0	0	0	15
	割合 (%)	6.7	93.3	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・地域と結びついた学習プログラムの運営、学生の起業が行われたほか、理事長裁量経費を活用した学生主体の取組など、一定の成果が上がっている点を高く評価する。
- ・コロナ禍の中、1 年次からの「インターンシップガイダンス」をしっかりと行ったことや、万全の感染防止対策をとりながらインターンシップを実施したことを評価する。
- ・コロナ禍の中、単位認定科目の実習方式によるインターンシッププログラムに取り組みられた点を評価する。
- ・コロナ禍の中、食健康学科の臨地実習の一部を学内での代替実習やオンライン実習に切り替えて実施したことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・学生の定期健康診断について、体調不良等で受診できなかった学生に対して受診勧奨するだけでなく、その後の状況把握などのフォローアップを検討されてはどうか。
- ・「インターンシップ」科目の履修率の向上に努めていただきたい。

5	研究に関する事項
B	中期計画の進捗は概ね順調

6個の小項目中、5項目がa(順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

5の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合(%)	0	83.3	0	16.7	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合(%)	0	83.3	0	16.7	0	100

▽評価できる点

- ・研究費の配分に対する学長のリーダーシップを評価したい。教職員の意欲と能力を最大限に引き出すため、学長裁量経費の活用を推進されたい。
- ・「地域資料の収集および活用に関する方針」を策定したことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・長野県立大学では、地域の産業や文化に基盤を置く基礎的な研究の実施を研究目的の一つとして掲げている。科学研究費の新規申請は他大学と比べて遜色はないものの、新規申請にあたっては、例えば基盤A研究や基盤B研究のように、総合的で大規模な基盤研究の獲得を大学一体となって目指していただきたい。
- ・長野県立大学の研究目的である①世界の持続的発展を可能にする研究成果の発信、及び②長野県の産業や文化を基盤とした学際的な研究の推進と成果の地域への還元を実現するための具体的な研究戦略を構築する時期にきていると考えられる。
- ・地域に開かれた大学として、web上で公開されている長野県関係の行政資料など、電子媒体の資料も含め、学生や教職員に限らず、地域で広く活用できるよう検討してはどうか。

6	地域貢献に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

8個の小項目中、1項目がs(特筆すべき進行状況にある)、7項目がa(順調に進んでいる)と認められ、大項目評価はA(中期計画の進捗は順調)となった。

6の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合(%)	12.5	87.5	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合(%)	12.5	87.5	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・コロナ禍における地域貢献として、地域の方々と接触する機会が非常に少なかった中で、県教育委員会との連携を進め、県内高校生を対象とした事業を企画、実施に向けて取り組んでいる点を高く評価する。次年度に向けて、一層の地域連携、地域貢献を期待する。
- ・信州ソーシャル・イノベーション塾、医療・福祉関係のフォローアップ研修を含んだ起業塾等による起業支援の取組を評価する。
- ・県内各地域から大学へのつなぎ役として活躍している「地域コーディネーター」が、コロナ禍にも拘らず、情報収集・関係づくりを進めるとともに、地域のニーズに即した支援に取り組まれていることを評価する。こうした仕組はとても大事であり、ぜひ継続してほしい。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・寄付講座の受入れに向けた地道な努力を評価するが、講座開設に結び付くよう、積極的な企業への働きかけを期待する。

7	国際交流に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

5個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

7の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20.0	80.0	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・コロナ禍にも拘らず、アメリカの大学と短期派遣プログラムの受入れ協議を行うとともに、またAPAIEオンライン大会に参加して、アジア諸国の高等教育機関との学術交流協定締結に向けた努力をしたことを評価する。

※APAIE：The Asia-Pacific Association for International Educationの略：アジア・太平洋地域国際教育交流協会

- ・訪日留学生を対象としたオンライン進学説明会に参加し、積極的な広報活動を実施していることを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・オンラインの普及で海外との連携がとりやすくなった環境を活用し、海外大学の講師による授業や学生・企業等との交流プログラムの構築など、具体的な取組がさらに進むことを期待する。
- ・DXの流れの中で、デジタル資料のアクセス先の紹介、留学生向けの電子情報の紹介ができるアドバイザーを置くなど、必要な対応が図られることを期待する。

8	業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

9個の小項目中、9項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

8の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	9	0	0	0	9
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	9	0	0	0	9
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・SD研修内容の充実に取り組んだことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・監事監査の対象は会計監査及び業務監査と広範であることから、監事の役割を果たすには法人評価部門・内部監査担当者・内部統制担当者と連携し、監査を行っていくことが望ましい。

9	財務内容に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

9の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・受託研究等の実績が出ていることは評価するが、今後とも自主財源の増加に向けて、大学を挙げて外部資金の獲得に取り組んでいただきたい。

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

10の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・学長が県内高校を直接訪問して志願者増加のために大学の広報

活動を行ったことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・法人の自己点検における中間進捗を可視化し、評価結果を大学運営会議に報告するなど、PDCA サイクルを効果的に機能する仕組みを構築したことは評価するが、今後は、自己点検で得られた情報を取りまとめ、経営審議会と監事にも報告することが望まれる。

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

14 個の小項目中、1 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、12 項目が a (順調に進んでいる)、1 項目が b (概ね順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

11 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	12	0	0	0	14
	割合 (%)	14.3	85.7	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	12	1	0	0	14
	割合 (%)	7.2	85.7	7.2	0	0	100

▽評価できる点

- ・国公立大学として、初めて再生可能エネルギー100%調達を決定されたことを高く評価する。
- ・コロナ禍の中で、61 回にも及ぶ学内の新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催するなど、様々な対応を迅速に行ったこと

を評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・海外プログラムに関する危機管理マニュアルについては、新型コロナウイルス対応に係る改善を行い、海外渡航した際の危機管理対応に万全を期した上で実施されるよう、引き続き体制整備を進められたい。
- ・様々なハラスメントがあり重要な問題となっている中で、オンライン研修による代替措置等も活用し、対策を推進されたい。

その他 法人運営全般に対する意見

- ・県民をはじめとする多様なステークホルダーに対する説明責任を果たし、適正かつ透明な法人運営に役立てるため、評価委員会による前年度評価結果の法人運営への反映状況を法人からの業務実績報告書の提出後速やかに公表されたい。
- ・業務実績報告書における法人の自己評価の判断理由については、できる限りエビデンスに基づいた定量的な説明を伴う記述とすることが望まれる。

参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和3年6月30日	「令和2年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」の公表・提出 (法人)
7月7日	公立大学法人長野県立大学評価委員会 法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの質問に対する法人からの説明、質疑応答
7月20日	第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
7月29日	第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
9月1日	第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・大項目・全体評価の検討 ・評価結果報告書の検討
9月17日	評価委員会から知事へ「令和元年度公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する評価結果報告」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏名	役職名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委員	生駒 和夫	公認会計士
委員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委員	沼尾 波子	東洋大学 国際学部 教授 長野県地方税制研究会 委員
委員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 前会長 (株) 八十二銀行 顧問